

キャリアデザイン学部

【2024年度大学評価総評】

年3回学部FDミーティングを開催し授業担当教員の報告を通して現状や課題を共有しているほか、授業の質を確保するために、兼任講師の担当科目に課題が生じた場合には専任教員が改善に向けた対策を行うなど、教育体制の向上について意欲的に取り組んでいる。また、学外での体験学習が重視されており、その成果の可視化にも腐心している。秋学期の最後の数回のゼミを公開して他のゼミと相互に学べるようにするという試みは、機敏な動きであったようであるが、斬新であり、今後の成果に注目したい。学生の受け入れの分野でも、合格者説明会の開催など、受験合格者への積極的なアプローチを行っている。

他方、大学院とも関連するが、教員の負担増が問題になっており、負担減のための学内業務効率化が進められている。

専門分野の性格から、カリキュラムを一定期間で見直していくことがとりわけ重要と考えられるが、まさに今、10年来の大規模カリキュラム改革を実行中であり、来年度実施を目指して、現在準備を進めている。英語科目についても近年のグローバル化を考慮し、二年次英語の必修化により英語学習の強化を図ろうとしており、改革の成果が注目される。1、2年次に単位を多く取り、3年生で就活をする、という現在の学生のスタイルに対して、3年次から履修可能な専門科目を配置する試みは特に注目される。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、 充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい

【根拠資料】

- ・法政大学学則 2024年度
(<https://www.hosei.ac.jp/application/files/7417/1047/1718/00..pdf>)
- ・同 別表「キャリアデザイン学部設置科目」
(<https://www.hosei.ac.jp/application/files/4517/1047/1720/07..pdf>)
- ・キャリアデザイン学部パンフレット
(https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-90&cs=1)
- ・「学部の理念・目的」(キャリアデザイン学部ホームページ)
(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/rinen/>)
- ・2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き (<https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MzU1NDcsImNhGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&pNo=1>)
- ・2024年度新入生オリエンテーションガイダンス資料 (2024年4月1日実施：スライド共有)
- ・同 語学ガイダンス (https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240401_cd_guidance_.pdf)
- ・2024年度キャリアデザイン学部新入生 Web ガイダンス動画
(<https://www.youtube.com/watch?v=YyJQe7Dhvug>)

基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証の方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質

保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部教授会規程
(<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&fCID=93&fFID=317534>)
- ・同教授会規程施行細則
- ・2023年度第1回キャリアデザイン学部FDミーティング資料および議事録（2023年4月7日実施：<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&gid=840&fCID=309523&fFID=339540>）
- ・2023年度第2回キャリアデザイン学部FDミーティング資料および議事録（2023年9月20日実施：<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&gid=840&fCID=309523&fFID=339562>）
- ・2023年度第3回キャリアデザイン学部FDミーティング資料および議事録（2024年2月26日実施：<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&gid=840&fCID=309523&fFID=340766>）
- ・2023年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシートおよび2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書（2023年度第16回教授会で承認〔2024年3月15日実施：資料B01/B02〕：同議事録）
(<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&gid=840&fCID=309523&fFID=340769>)

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部パンフレット
(https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-90&cs=1)
- ・「ディプロマ・ポリシー」（学部ホームページ）
(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/diploma/>)
- ・「カリキュラム・ポリシー」（学部ホームページ）
(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/curriculum/>)
- ・2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き(<https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MzU1NDcsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&pNo=1>)
- ・2024年度新入生オリエンテーションガイド資料（2024年4月1日実施：スライド共有）
- ・2024年度キャリアデザイン学部新入生Webガイド動画
(<https://www.youtube.com/watch?v=YyJQe7Dhvug>)

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
---	----

4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部パンフレット
(https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-90&cs=1)
- ・2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き
(2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き | HOSEI HONDANA (actibookone.com))
- ・キャリアデザイン学部カリキュラム・マップ
(https://www.hosei.ac.jp/application/files/9415/7163/3424/curriculum_map2.pdf)
- ・キャリアデザイン学部カリキュラム・ツリー
(https://www.hosei.ac.jp/application/files/9815/7163/3423/curriculum_tree.pdf)
- ・2024年度新入生オリエンテーションガイダンス資料（2024年4月1日実施：スライド共有）
- ・キャリアデザイン学部Webシラバス
(https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=AM&t_mode=pc)
- ・授業改善アンケート結果の精査（各教員および執行部による全体の確認）

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥ 単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部パンフレット
(https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-90&cs=1)
- ・2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き (<https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MzU1NDcsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&pNo=1>)
- ・2024年度新入生オリエンテーションガイダンス資料（2024年4月1日実施：スライド共有）
- ・同 語学ガイダンス (https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240401_cd_guidance_.pdf)
- ・2024年度キャリアデザイン学部新入生Webガイダンス動画
(<https://www.youtube.com/watch?v=YyJQe7Dhvug>)
- ・体験型選択必修科目プレガイダンス（2023年11月30日・12月4日実施）
(https://hosei-keiji.jp/cd/class/231122_cd)

- ・新2年生向けガイダンス（2024年3月19日実施）（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230123_03）
- ・新入生履修相談会（2024年4月5日実施）（https://hosei-keiji.jp/cd/class/20240327_01）
- ・キャリアデザイン学部Webシラバス
(https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=AM&t_mode=pc)
- ・「教務委員会資料：シラバス原稿の作成について」2023年度第13回教授会資料（2024年1月19日実施：資料B07）
 - ・2023年度ゼミ履修の手引き（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01）
 - ・ゼミ履修ガイダンス動画（2023年4月配信：<https://www.youtube.com/watch?v=SGUs5Y1PN6o>）
 - ・授業改善アンケート結果の精査（各教員および執行部による全体の確認）
 - ・「成績不振者に対する取り組みについて」2023年度第1回教授会資料（2023年4月7日実施：資料番号B01）
 - ・「成績不振学生に対する取組みについて（実施報告）」2023年度第16回教授会資料（2024年3月15日実施：画面共有）
 - ・2023年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート（2023年度第16回教授会で承認〔資料B01〕：同議事録）
(<https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&gid=840&fCID=309523&fFID=340769>)
 - ・「教務委員会資料：ゼミ選考について」2023年度第2回教授会資料（2023年4月28日実施：資料番号B051）
 - ・2023年度学生活動サポートプログラム（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230523_01）
 - ・2023年度キャリアアップ奨励金（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230616_01）
 - ・「学部質保証委員会：学生モニター調査報告」2023年度第12回教授会資料（2023年12月22日実施：資料番号B05）

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部履修の手引き
(2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き | HOSEI HONDANA (actibookone.com))
- ・「アセスメント・ポリシー」（学部ホームページ）
(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/assessment/>)
- ・「学習成果を把握（測定）する方法」（学部ホームページ）
(https://www.hosei.ac.jp/application/files/6115/8563/7327/12_.pdf)
- ・2024年度新入生オリエンテーションガイダンス資料（2024年4月1日実施：スライド共有）
- ・同 語学ガイダンス (https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240401_cd_guidance_.pdf)
- ・2024年度キャリアデザイン学部新入生Webガイダンス動画
(<https://www.youtube.com/watch?v=YyJQe7Dhvug>)
- ・体験型選択必修科目プレガイダンス（2023年11月30日・12月4日実施）
(https://hosei-keiji.jp/cd/class/231122_cd)
- ・新2年生向けガイダンス（2024年3月19日実施）（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230123_03）
- ・キャリアデザイン学部Webシラバス
(https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=AM&t_mode=pc)
- ・2023年度ゼミ履修の手引き（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01）
- ・ゼミ履修ガイダンス動画（2023年4月配信：<https://www.youtube.com/watch?v=SGUs5Y1PN6o>）
- ・「春学期採点訂正について」2023年度第7回教授会資料（2023年9月22日実施：回覧資料4）

- | |
|---|
| ・「授業運営・成績評価にあたっての危機管理について：2023年度執行部」第8回教授会（2023年10月6日実施：口頭説明） |
| ・「2023年度成績判定結果について」第15回教授会資料（2024年2月24日実施：回覧資料3） |

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい

【具体的な活用事例】

本学部では、毎学期に行われる授業改善アンケート結果については、学部内ネットワーク（サイボウズ）を通して全教員に共有し、併せて教授会にて執行部より、各教員がそれぞれの授業改善に積極的に役立てるよう強く促している。なかでも主要科目については、年三回開催している学部FDミーティングにおいて授業担当教員より現状や課題の報告がなされ、必要に応じて対応策の検討を行っている。一方、執行部内で自由記述部分も含め全アンケート結果を確認し、特に兼任講師の担当科目において問題ありと認められたケースについては、窓口を務める専任教員を通じて改善に向けての対策を講じている。入学前アンケートおよび卒業生アンケートに関しても、毎年その結果を学部内で共有し、特に注目すべき変化や傾向等が見られた場合は、教授会において議論の俎上に載せている。Haloの活用については、執行部において、学年別修得単位数の経年データを整理し、2012年度入学以降の学生の学年別取得単位数を図表化し、その特徴等について教授会で報告するとともに、現在学部内で進められているカリキュラム改革において、科目的配置や学年ごとの履修単位数の決定等に関する基礎資料として利用している（参考：「学修成果可視化システム（Halo）を用いた学年修得単位数分析：執行部」2023年度第13回教授会資料（2024年1月19日実施：資料番号B06）。

基準5 学生の受け入れ

- 5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい

【根拠資料】

- ・キャリアデザイン学部ホームページ (<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/>)
- ・学部パンフレット（キャリアデザイン学部 2024：法政大学 | キャリタス進学 (career-tasu.jp)
- ・「アドミッション・ポリシー」（学部ホームページ）(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/admission/>)
- ・法政大学入試情報サイト：キャリアデザイン学部 (https://nyushi.hosei.ac.jp/gakubu_gakka/careerdesign)
- ・学生サポート委員会による合格者説明会（2024年2月28日実施 [オンライン]）(<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/important/article-20240131125556/>)

- 5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	

- ・法政大学ホームページ 情報公開（修学上の情報）
(<https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/>)
- ・2025年度第1回入試委員会資料 pp. 5-9.
- ・学務部学務課作成 2024年5月1日現在 学生在籍者数一覧

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上 1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上 1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザイン学部教授会規程」および「教授会規程施行細則」 (https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&fCID=93&fFID=317534) ・キャリアデザイン学部教員紹介（学部ホームページ） (https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/kyooin/) ・「教務委員会資料：2023年度専任教員担当科目一覧」2023年度第2回教授会資料：2023年4月28日実施：資料番号B05-2) 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部教授会内規 (https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&fCID=93&fFID=317534) <ul style="list-style-type: none"> 「キャリアデザイン学部教授・准教授への昇格に関する基準」 「専任教員の任用に関する基準」 「専任教員の定年延長に関する基準」 「専任教員の定年延長の更新に関する基準」 「任期付教員の任用に関する基準」 「非常勤教員の任用に関する基準」 ・「常設人事委員会資料」2023年度第1回FDミーティング資料（2023年4月7日実施：資料番号F19） 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関する相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態	はい

に応じて対応していますか。	はい
7.1④ I C Tを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部履修の手引き (2024年度キャリアデザイン学部履修の手引き HOSEI HONDANA (actibookone.com)) ・「キャリアアドバイザー制度運営委員会報告（「2023年度キャリアアドバイザー業務報告」を含む）」 2024年度第1回FDミーティング資料（2024年4月12日実施：資料番号F16） ・「成績不振者に対する取り組みについて」2023年度第1回教授会資料（2023年4月7日実施：資料番号B01） ・「成績不振学生に対する取組みについて（実施報告）」2023年度第16回教授会資料（2024年3月15日実施：画面共有） ・新入生履修相談会（2024年4月5日実施）(https://hosei-keiji.jp/cd/class/20240327_01) ・2023年度学生活動サポートプログラム（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230523_01） ・2023年度キャリアアップ奨励金（https://hosei-keiji.jp/cd/class/230616_01） 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関する支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「研究倫理規程の策定について：執行部」2023年度第4回教授会資料（2023年6月9日実施：資料番号B3-1/2/3） ・法政大学キャリアデザイン学部研究倫理委員会規程 (https://hoseicd.cybozu.com/o/ag.cgi?page=FileView&fCID=93&fFID=317534) ・「研究倫理審査」2023年度第6回教授会資料（2023年7月21日実施：資料番号B15） ・「公的研究補助金に係る不正使用に伴う補助金等交付停止及び指名競争入札指名停止措置について」 2023年度第12回教授会資料（2023年12月22日実施：資料番号A03） ・基礎ゼミ第3回シラバス「レポートの書き方（1）捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意」 (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2414320&nendo=2024&gakubueng=AM&t_mode=pc&radd=) ・キャリア研究調査法入門第14回シラバス「成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする」 (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2413951&nendo=2024&gakubueng=AM&t_mode=pc&radd=) ・2024年度新入生オリエンテーションガイダンス資料（2024年4月1日実施：スライド共有） ・2023年度第3回FDミーティング「特定テーマ：生成AI元年を迎えて」（2024年2月26日実施：スライド共有） 	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度キャリアデザイン学部主催シンポジウム「ChatGPT vs. キャリアデザイン 生成AIは若者の 	

キャリアにどんな影響をもたらすのか?」(2023年11月18日実施:オンラインおよびYouTube配信)
[\(https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231011132040/\)](https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231011132040/)

- ・「キャリア体験学習(インターン)」プロジェクト発表会(2023年12月13日実施)
[\(https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20240112111325/\)](https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20240112111325/)
- ・「キャリア体験学習(プロジェクト)2023成果報告会」(2023年12月15日実施)
[\(https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231219094613/\)](https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231219094613/)
- ・「キャリア体験学習(プロジェクト):三重県伊勢市のおかげ横丁の魅力を発信しています」
[\(https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231211105131/\)](https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/info/article-20231211105131/)
- ・2023年度体験型科目報告書公開
 - 「キャリア体験学習(プロジェクト)成果報告書」
[\(https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240318_cd_seikahoukokusyo_project.pdf\)](https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240318_cd_seikahoukokusyo_project.pdf)
 - 「キャリア体験学習(インターン)成果報告書」
[\(https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240318_cd_seikahoukokusyo_intern.pdf\)](https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/240318_cd_seikahoukokusyo_intern.pdf)
 - 「キャリア体験学習(国際:ベトナム)報告書」
[\(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/5817/1041/0348/240315_cd_seika_houkokusyo_vietnam.pdf\)](https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/5817/1041/0348/240315_cd_seika_houkokusyo_vietnam.pdf)
 - 「キャリア体験学習(国際:台湾)報告書」
[\(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/5417/1041/0199/240315_cd_seika_houkokusyo_taiwan.pdf\)](https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/5417/1041/0199/240315_cd_seika_houkokusyo_taiwan.pdf)
 - 「キャリアサポート実習報告集」
[\(https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/3017/1041/0182/240315_cd_seika_houkokusyo_careersupport.pdf\)](https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/3017/1041/0182/240315_cd_seika_houkokusyo_careersupport.pdf)

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】(参考)

キャリアデザイン学部では、教室での授業だけでなく学外での体験学習も重視され、体験型科目(通年:事前指導→実習→事後学習)を設置(今年度時点で15)し、平均20名程度からなる少人数クラスを運営し、その学習成果の可視化の面でも体験学習の報告書や成果発表などが取り纏められているということであり、それらは特徴ある教育課程・教育方法として高く評価される。そして、体験学習のオンラインによる効果的な実習のあり方についても検討を進めているということであり、その検討結果がどうなるのか興味深い。

また、2022年度大学評価結果総評の中で持続可能性を考えると早急に対応策を検討する必要があると指摘された教員の負担増という課題に対しては、引き続き学部各種委員会の業務内容の精査やその結果としての委員数の見直し、入試担当業務の整理・合理化、学部内向けの質保証・自己点検シートの記述方法の簡易化など、できるところから少しづつさらなる効率化を図っているということである。この点は、今年度の年度目標で学部運営に関わるさまざまな業務のさらなる効率化と平等化に努めるとされ、その達成指標として、学部内委員会の業務内容の精査や、必要に応じて他の委員会との協働もしくは個別担当者の裁量の拡大等の工夫を推し進めるとされており、今後の取組の進展が注目される。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2023年度は、コロナ禍によるさまざまな制約の殆どが解除され、海外を含む各種の学外実習もほぼ

以前の状況に戻って滞りなく実施することができた。コロナ禍を経てオンラインの活用の幅が著しく広がったことを受けて、体験学習の成果報告書や卒業論文要旨集といった学習成果の公開・共有や、各種ガイダンスやシンポジウム等のオンライン実施も一段と容易になった。2023年度の総評において、学部運営に関わる業務の効率化について、引き続きその進捗状況を注視する旨のご指摘をいただいたが、この点についてもオンラインの更なる活用を推し進め、各種委員会の開催や授業に関する打ち合わせ等がよりスムーズに行えるようになってきている。今後も年三回実施されるFDミーティングにおける自己点検と議論を軸として、学部運営に関わるさまざまなものについて、透明性と平準性、および持続可能性に留意しつつ改善を図っていくこととした。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取り組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
本学部では現在、2025年度の運用開始を目指して、ほぼ十年ぶりとなる大規模なカリキュラム改革の議論が進められている。この間の社会の変化やそれに伴う学習上のニーズの変容等を考慮して、科目内容の適切さを確認するとともに、学習の順次性・階梯性をより明確にして学生の学びに資するよう配慮している。また、学際学部の特色を活かしつつ同時に学生の専門性を深めるための方策として、ゼミのあり方についても検討を重ねてきている。本学部では、教室授業の一方で学外での体験学習も重視しているため、体験型科目についても実効性を考慮しつつその種類や内容を精査しているところである。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない	S（さらに改善した又は新たに取り

て、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	組んだ)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p> <p>上記のとおり、現在本学部ではカリキュラム改革の途上にあり、英語科目についても近年のグローバル化を考慮し、二年次英語の必修化によって学習の強化を図ろうとしている。それに際しては、本学の学生モニター制度を利用して、英語学習に対する学生の意見を聴取し、その結果を英語クラス編成等の議論に反映させている（参考：「学部質保証委員会：学生モニター調査報告」2023年度第12回教授会資料（2023年12月22日実施：資料番号B05）。</p>		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関するここと】
中期目標		現行の教育課程を、その効果を隨時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。
年度目標		科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計を推し進める。
達成指標		前年度までの議論を土台として、教務担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、臨時教授会なども活用しつつ、春学期中に新カリキュラムの大枠を決定し、秋学期に細部を整えることを目ざす。
教授会執行部による点検・評価		
年度 末 報 告	自己評価	A
	理由	新カリキュラム設計においては、既定の事項と未定の事項を教授会で共有し、1つ1つ審議・決定事項を積み重ねていくことで大枠の決定から科目名称・開講期・読み替えの設定などの細部に至るまでをほぼ決定することができた。特にゼミ選択については詳しく学生の動向を把握・検討したうえで領域を限定しないゼミ選択に切り替えることを決定した。
	改善策	今後は旧カリキュラムの学生に必要な周知を行うと共に、新カリキュラムの学生を迎えるにあたって学部がこの新カリキュラムにおいてねらいとした計画的・段階的な履修が可能となるよう、ガイダンスのあり方を検討していきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
年度 末 報 告	所見	新カリキュラム設計において、既定・未定の事項を教授会で共有しつつ審議を積み重ね、全体の枠組みから細部に至るまで綿密な検討が行えた。 また、学生の動向を詳細に把握し、検討した結果、領域を限定しないゼミ選択を導入したことは、学生の関心やニーズに応える柔軟なカリキュラム設計を可能にしたと考えられる。
	改善のための提言	新カリキュラムのガイダンスでは、履修計画の立て方、ゼミ選択のガイドライン、学習成果への影響など、学生が具体的なイメージを持てるような情報提供が求められる。 新カリキュラムの運用開始後は、学生や教員からのフィードバックを定期的に収集し、カリキュラムの改善に反映させる仕組みを設けることが重要である。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関するここと】
	中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度 末 報 告	年度目標	①原則100%対面授業への移行が滞りなく実施され、学生が不利益を被ることなく効果的に学修に勤しむことができるよう努める。
	達成指標	授業改善アンケートや授業形態アンケート、履修者数のチェックなどを通じて、学生が適切なかたちで学修に臨めているか検証しつつ授業を実施する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
年度 末 報 告	理由	履修者数が少なかった情報処理演習については新入生ガイダンスにおける働きかけの結果、改善することができた。 授業改善アンケートや授業形態アンケートの集計結果を検討すると共に、今年度は各授業の授業改善アンケートの自由記述結果も執行部内で確認し、懸念点の解消に努めた。
	改善策	各授業の授業改善アンケートの自由記述結果の執行部内で確認・検討は今後も続けたい。 体験型選択必修科目やゼミなどは、応募者数・履修者数を教務委員会で毎年把握・検討しており、これを続ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	情報処理演習の履修者数が少なかった問題に対して、新入生ガイダンスでの積極的な働きかけにより改善が見られたことは、学生の興味や関心を引き出し、関連科目への参加を促す取り組みが有効であったことを示している。
改善のための提言	改善のための提言	自由記述の回答にある程度の傾向が見られれば、授業アンケートの学部独自項目として追加することによって情報収集を効率化できると思われる。

	めの提言	また、各科目やゼミの教育内容や運営方法についても定期的にモニタリングを行い、必要に応じて改善策を講じることが望ましい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。	
年度目標	②学外での実習の意義や効果を勘案しつつ、オンラインによる実習の可能性についてさらに検討を進める。	
達成指標	コロナ禍により学外での活動の中止・変更等を余儀なくされてきた科目に関しては、感染防止に努めつつ全面的に再開するとともに、オンラインによる効果的な実習のあり方についても検討を進める。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部の方針として、特にオンラインでの学習が効果的と考えられる授業を除き、基本的に対面の授業形態に戻した。特にその点につき、学生から不満や意見は寄せられておらず、スムーズに戻すことができたと考えられる。
	改善策	対面授業に戻しつつも、オンライン授業期間中におこなってきた Hoppii による課題提出や質問・コメントの提出とフィードバックなどの手法の活用は続けていきたい。教員に万一のことがあった場合の危機管理としても有効であることを共有済みである。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	対面授業への移行においては大きな支障や問題が見られず、円滑に実施されたと言える。Hoppii の積極的な活用の継続は、ICT を用いた効率的な教育実践のために望ましいことであり、危機管理策としての位置づけも有効な策として評価できる。
	改善のための提言	対面授業への移行、Hoppii の活用のいずれにおいても、学生からの意見のみならず、教育効果の点からも今後の経過を観察していく必要がある。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
年度末報告	中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム (Halo) の活用に努める。
	年度目標	①学部のディプロマ・ポリシーに基づき、適切な出口保証のシステムを構築する。
	達成指標	従来の学生研究発表会に代えて、より効果的な出口保証のあり方について検討・実施する。
	教授会執行部による点検・評価	
年度末報告	自己評価	A
	理由	卒業論文の成果を学部内で共有することができるよう、秋学期終盤の数回のゼミを原則公開とし、他のゼミにおける研究活動からも学べるような仕組みを構築した。また前年度に継いで卒業論文の要旨集を作成し、学部掲示板を通して共有した。
	改善策	今年度から開始したゼミ公開の制度についてその実施状況や効果を検証し、必要に応じて改善していく。また卒論要旨集の書式や公開方法についても引き続き検討を加える。
	質保証委員会による点検・評価	
年度末報告	所見	秋学期の終盤のゼミを学部内に原則公開にしたことで、学部内の学術的なコミュニケーションと相互学習を促進する取り組みが開始された。卒業論文は研究として未熟な成果物であることが多いため、公開範囲は慎重に検討すべきである。
	改善のための提言	ゼミ公開の制度の実施状況や効果については検証が必要であり、課題が発見された際には改善策を講じることが期待される。一方で、ゼミ公開と趣旨が重複する要旨集の共有の今後の実施についてはその効果も含めて再検討の余地がある。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム (Halo) の活用に努める。

年度目標	②今年度から導入される学習成果可視化システム（Halo）の効果的な活用について検討する。										
達成指標	学生、教員、執行部それぞれが学習成果可視化システムの利点を理解し、適宜活用していくことを目ざす。										
年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>B</td></tr> <tr> <td>理由</td><td>執行部において Halo のデータを分析し、学生の履修動向に関して経年の変化をたどるとともに、それについての考察結果を教授会で全教員と共有した。</td></tr> <tr> <td>改善策</td><td>Halo が導入されたことや、その具体的な活用の可能性などについて、新入生ガイダンスや二年生ガイダンス等の機会に積極的に周知していくとともに、学生たちがどの程度理解・利用できているかを検証していく。</td></tr> </table> <p>質保証委員会による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>所見</td><td>学生の履修動向に関する経年の変化を追跡し、考察結果を教授会で共有した取り組みは、学生の学習行動を把握し、特性を知るうえで有用である。この分析を学習指導やカリキュラム改善にどのように活用していくかが今後の課題となる。</td></tr> <tr> <td>改善のための提言</td><td>データ分析の試みは今後も継続していくことが望ましい。また、データ収集における倫理性の観点からも、Halo の使用や使用目的、学生にとっての便益などを新入生ガイダンスにおいて学生に周知し、活用の成果のフィードバックもしていくことが求められる。</td></tr> </table> <p>評価基準</p> <p>学生の受け入れ</p> <p>中期目標</p> <p>入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。</p> <p>年度目標</p> <p>①入試合格者に対して引き続き積極的な働きかけを行う。</p> <p>達成指標</p> <p>昨年度に続き、学部ホームページやオンライン懇談会等を工夫して合格者への丁寧なアプローチを行う。</p>	自己評価	B	理由	執行部において Halo のデータを分析し、学生の履修動向に関して経年の変化をたどるとともに、それについての考察結果を教授会で全教員と共有した。	改善策	Halo が導入されたことや、その具体的な活用の可能性などについて、新入生ガイダンスや二年生ガイダンス等の機会に積極的に周知していくとともに、学生たちがどの程度理解・利用できているかを検証していく。	所見	学生の履修動向に関する経年の変化を追跡し、考察結果を教授会で共有した取り組みは、学生の学習行動を把握し、特性を知るうえで有用である。この分析を学習指導やカリキュラム改善にどのように活用していくかが今後の課題となる。	改善のための提言	データ分析の試みは今後も継続していくことが望ましい。また、データ収集における倫理性の観点からも、Halo の使用や使用目的、学生にとっての便益などを新入生ガイダンスにおいて学生に周知し、活用の成果のフィードバックもしていくことが求められる。
自己評価	B										
理由	執行部において Halo のデータを分析し、学生の履修動向に関して経年の変化をたどるとともに、それについての考察結果を教授会で全教員と共有した。										
改善策	Halo が導入されたことや、その具体的な活用の可能性などについて、新入生ガイダンスや二年生ガイダンス等の機会に積極的に周知していくとともに、学生たちがどの程度理解・利用できているかを検証していく。										
所見	学生の履修動向に関する経年の変化を追跡し、考察結果を教授会で共有した取り組みは、学生の学習行動を把握し、特性を知るうえで有用である。この分析を学習指導やカリキュラム改善にどのように活用していくかが今後の課題となる。										
改善のための提言	データ分析の試みは今後も継続していくことが望ましい。また、データ収集における倫理性の観点からも、Halo の使用や使用目的、学生にとっての便益などを新入生ガイダンスにおいて学生に周知し、活用の成果のフィードバックもしていくことが求められる。										
年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>A</td></tr> <tr> <td>理由</td><td>学部公式 YouTube チャンネルでの学部紹介動画公開、学部パンフレットの作成、学部ホームページでの情報提供等、入試合格者をはじめ受験生や一般に向けて多様な媒体・形態における情報発信を継続している。とりわけ 2 月末の合格者説明会では、学部説明（学部全体、各領域）および相談会（合格者の質問に教員が回答）を実施し、入試合格者に対して積極的なアプローチを行っている。</td></tr> <tr> <td>改善策</td><td>年度ごとの働きかけの振り返りに加え、複数年度にわたる経時的な評価も行いつつ、入試合格者へのアプローチを継続し、必要に応じて改善を図っていく。</td></tr> </table> <p>質保証委員会による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>所見</td><td>デジタルメディアを主体とした多様な媒体を通じた情報発信は、受験生や一般の関心を引き、学部の魅力を広く伝える効果的な方法として評価できる。 また、合格者への積極的なアプローチ：は、合格者が学部に対して持つ疑問を解消し、入学意欲の増加に寄与する可能性のある施策として評価できる。</td></tr> <tr> <td>改善のための提言</td><td>情報発信活動の効果を測定するための具体的な指標を設定し、経時的な変化を追跡することが重要である。たとえば、受験生や合格者の数に加え、ウェブサイトや YouTube チャンネルのアクセス数、ソーシャルメディアのフォロワー数などが挙げられる。</td></tr> </table> <p>評価基準</p> <p>学生の受け入れ</p> <p>中期目標</p> <p>入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。</p> <p>年度目標</p> <p>②中長期的な視野に立って指定校入試の改革を継続的に行う。</p> <p>達成指標</p> <p>昨年度に構築した指定校選定のルールに基づき、入試担当の執行部主任を中心に効果的かつ効率的な指定校推薦入試の運営に努める。</p>	自己評価	A	理由	学部公式 YouTube チャンネルでの学部紹介動画公開、学部パンフレットの作成、学部ホームページでの情報提供等、入試合格者をはじめ受験生や一般に向けて多様な媒体・形態における情報発信を継続している。とりわけ 2 月末の合格者説明会では、学部説明（学部全体、各領域）および相談会（合格者の質問に教員が回答）を実施し、入試合格者に対して積極的なアプローチを行っている。	改善策	年度ごとの働きかけの振り返りに加え、複数年度にわたる経時的な評価も行いつつ、入試合格者へのアプローチを継続し、必要に応じて改善を図っていく。	所見	デジタルメディアを主体とした多様な媒体を通じた情報発信は、受験生や一般の関心を引き、学部の魅力を広く伝える効果的な方法として評価できる。 また、合格者への積極的なアプローチ：は、合格者が学部に対して持つ疑問を解消し、入学意欲の増加に寄与する可能性のある施策として評価できる。	改善のための提言	情報発信活動の効果を測定するための具体的な指標を設定し、経時的な変化を追跡することが重要である。たとえば、受験生や合格者の数に加え、ウェブサイトや YouTube チャンネルのアクセス数、ソーシャルメディアのフォロワー数などが挙げられる。
自己評価	A										
理由	学部公式 YouTube チャンネルでの学部紹介動画公開、学部パンフレットの作成、学部ホームページでの情報提供等、入試合格者をはじめ受験生や一般に向けて多様な媒体・形態における情報発信を継続している。とりわけ 2 月末の合格者説明会では、学部説明（学部全体、各領域）および相談会（合格者の質問に教員が回答）を実施し、入試合格者に対して積極的なアプローチを行っている。										
改善策	年度ごとの働きかけの振り返りに加え、複数年度にわたる経時的な評価も行いつつ、入試合格者へのアプローチを継続し、必要に応じて改善を図っていく。										
所見	デジタルメディアを主体とした多様な媒体を通じた情報発信は、受験生や一般の関心を引き、学部の魅力を広く伝える効果的な方法として評価できる。 また、合格者への積極的なアプローチ：は、合格者が学部に対して持つ疑問を解消し、入学意欲の増加に寄与する可能性のある施策として評価できる。										
改善のための提言	情報発信活動の効果を測定するための具体的な指標を設定し、経時的な変化を追跡することが重要である。たとえば、受験生や合格者の数に加え、ウェブサイトや YouTube チャンネルのアクセス数、ソーシャルメディアのフォロワー数などが挙げられる。										
年度末	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>A</td></tr> <tr> <td>理由</td><td>前年度から体系化された指定校選定方法に基づき、新規校 26 校（首都圏 11 校、首都圏</td></tr> </table>	自己評価	A	理由	前年度から体系化された指定校選定方法に基づき、新規校 26 校（首都圏 11 校、首都圏						
自己評価	A										
理由	前年度から体系化された指定校選定方法に基づき、新規校 26 校（首都圏 11 校、首都圏										

報告		以外 15 校) を追加した。首都圏に限らず、全国を視野に入れた指定校依頼を行っている。ここ数年間、指定校依頼数に対する出願率は年々落ちてきていたが、2024 年度入試においては前年比微減にとどまった。底打ちするか注視していきたい。なお、2025 年度入試より指定校推薦の定員を 38 から 45 に変更することが教授会で決まったこともあり、より効果的・効率的な指定校推薦入試の運営に努めていく。
	改善策	指定校入試の入学実績・入学者成績等のデータを継続的にモニターし、特別入試および一般入試の全体動向を見据えながら、必要な改善策を適宜講じる。
	質保証委員会による点検・評価	
所見		指定校推薦入試の対象範囲を広げ、全国規模での受験生の獲得を目指すことは、学部の知名度向上および多様な地域からの受験生の引き寄せにつながりうる施策として評価できる。 ここ数年間で指定校依頼数に対する出願率が年々落ちていた中、2024 年度入試では前年比微減にとどまることは、出願率の落ち込みが一定程度抑制されたとも考えられる。
	改善のための提言	出願率の年々の落ち込みに対して、2024 年度入試で微減に留まったとはいえ、出願率の低下を止めるための具体的な戦略や対策が必要である。 また、定員増による影響を正確に評価するために、入学実績や入学後の学生の成績その他の学習状況をモニタリングし、教育質の維持・向上に対する影響を検証することが望ましい。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	3 つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。	
年度目標	学部運営に関わるさまざまな業務のさらなる効率化と平等化に努める。	
達成指標	学部内委員会の業務内容の精査や、必要に応じて他の委員会との協働もしくは個別担当者の裁量の拡大等の工夫を推し進める。	
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	大学院の情報を全教員が共有できるよう、学部執行部と大学院執行部で定期的に合同ミーティングを開くこととした。また、法政大学キャリアデザイン学会の運営に関して、会計や監事の役割をより明確にするとともに、出納等に関わる業務委託の契約書を整え、さらに省力化のためにインターネットバンキングを導入した。加えて、学会の規定及び細則についても全体にアップデートを図った。
	改善策	大学院と学部との間の情報共有や議論の機会を設けることについては、今後もその範囲や頻度について工夫を重ねていくこととする。また、本年度に整備した法政大学キャリアデザイン学会の運営の仕組みが、次年度以降もスムーズに引き継がれるよう配慮していく。
質保証委員会による点検・評価		
所見	学部と大学院の連携の強化は、教育および研究活動の質の向上、および学部内資源配分の最適化の点からも効果的であり、今後も継続することが必要である。 法政大学キャリアデザイン学会の運営改善は、学会運営の透明性と効率性の向上に向けて着実に進められており、学会運営の長期的な安定性に寄与するものである。	
	改善のための提言	法政大学キャリアデザイン学会の運営は過去数年間にわたり改善が進められ、管理体制が整備されてきたが、運営の持続可能性が課題になる。会計・監事業務にかかる時間的な負担および専門性要件を軽減できるような施策も求められる。
評価基準	学生支援	
中期目標	入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。	
年度目標	外国人留学生をはじめ多様な入試経路による学生たちに対して、よりきめ細かな支援のあり方を工夫する。	
達成指標	学習成果可視化システム等の活用や、キャリアアドバイザーによるサポートの一層の充	

実を図る。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 A
	理由 Halo のデータを用いて分析と新カリキュラム（2025 年度～）の検討を行った。その結果、2017 年度入学生から 1-2 年次に集中して単位取得を図る傾向が認められた。2025 年度から始まる新カリキュラムにおいて、3 年次から履修可能な科目「専門 II」が配置されることから、しばらくの間推移を確認することを決定した。
	改善策 新カリキュラムの導入に向けて、今後も Halo のデータを活用する。併せて、外国人留学生等への有効なアプローチを検討する。
	質保証委員会による点検・評価
	所見 学部が Halo のデータを用いて、学生の単位取得傾向を分析し、新カリキュラム検討のための基礎データとして活用したことは評価できる。 「専門 II」科目を 3 年次から履修可能とする変更は、学生がより深く専門知識を学ぶための基盤作りに寄与すると考えられる。
	改善のための提言 Halo のデータを継続的に収集・分析し、学生の学習成果に及ぼす影響を定期的にレビューすることが重要である。 外国人留学生へのアプローチに関しては、彼らのニーズに合わせた支援プログラムやオリエンテーションの開発が求められる。
	評価基準 社会貢献・社会連携
	中期目標 教育・研究を通して積極的に社会貢献・社会連携を行い、そのプロセスや成果を広く発信していく。
	年度目標 学部シンポジウム開催やウェブサイトのさらなる充実を通して、キャリアデザインに関する研究や学生活動の成果をより広範に発信する。
	達成指標 教員自身の研究においてはいうまでもなく、学生活動サポートプログラムや多様なゼミ活動を通じて、学生もまた広く社会との連携を経験し、その成果を多様な媒体を介して発信することを目指す。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 A
	理由 学部シンポジウム「ChatGPT Vs. キャリアデザイン」を開催し、シンポジウムの様子を後日 youtube でも配信した。また学生活動サポートプログラムでの活動内容は、法政大学キャリアデザイン学会の紀要「生涯学習とキャリアデザイン」にてオンライン公開という形で発信している。
	改善策 各ゼミで外部資源と連携した多様な活動をしているが、発信が各教員レベルとなっているケースが複数存在することから、学部レベルでの発信のあり方を再度検討する。
	質保証委員会による点検・評価
	所見 学部の教育内容と研究活動を広く社会に発信する効果的な取り組みとして高く評価される。学生活動サポートプログラムにおける活動内容の発信は、学生たちの活動を可視化し、外部に対してその意義を伝えることができる施策として評価できる。
	改善のための提言 学部レベルでの統一された発信戦略を策定し、各ゼミや個別の教員による活動もこの戦略に沿って発信するようにすることが望ましい。これには、学部のウェブサイト、ソーシャルメディアのアカウント、ニュースレターなどを活用し、学部のアイデンティティと一貫性を持たせることが重要である。
	【重点目標】 科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計を推し進める。
	【目標を達成するための施策等】 教務担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、教授会における議論を積み重ねていくことにより、本年度中に新カリキュラムの内容を決定し、2024 年度の準備段階を経て翌 25 年度から運用を開始することを目指す。そのためには、学生に身につけてほしい力をより明確にするとともに、学生の履修行動の傾向等についても適宜検証しながら、時代のニーズに即した教育内容を整備し、より効果的な学修の積み重ねが可能となるようなカリキュラムの構築を目指す。

【年度目標達成状況総括】

2025 年度に運用開始予定のカリキュラム改革に関しては、「キャリア・スタディーズ専門科目」という総称のもと、理論・方法・実践・演習の観点から科目を整理するとともに、階梯性に配慮した科目の再編・再配置を行った。併せて、グローバル社会に対応すべく 2 年次の英語を必修化し、たゆみなく外国語の鍛錬に勤しめるような仕組みも構築した。その過程で、授業内容の重複や学生のニーズ等を勘案し、厳格な科目的選別を行い、大幅なスリム化につなげることができた。今後は新カリキュラムへの移行がスムーズに行われるよう入念に準備していきたい。一方、執行部を中心に、授業改善アンケートの結果や新たに本学に導入された Halo のデータに基づいて学生の履修状況の把握に務めたが、今後はさらに精細な分析を行いつつ、より具体的かつ効果的な施策を検討していくこととした。

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関するここと】
中期目標	現行の教育課程を、その効果を隨時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。
年度目標	次年度からの新カリキュラムの運用開始に向けて、学則改正や時間割の決定等、整備面における対応を遺漏なく進めるとともに、旧カリキュラムの履修学生が不利益を被ることのないよう適切な配慮を講じる。
達成指標	学則改正をはじめとする事務的な手続きを計画的に進める一方で、現行カリキュラムの履修学生に対してきめ細かく履修指導やアナウンスを行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関するここと】
中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度目標	原則 100% 対面での授業に戻したことにより、学生がより積極的・効果的に学びを深めていくよう努める。
達成指標	学部執行部や教務委員会の主導のもとで、授業改善アンケートの結果や各授業の履修者数のチェック、学生モニター調査等を通じて、学生が適切なかたちで学習に臨めているかを検証していく。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関するここと】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム (Halo) の活用に努める。
年度目標	学習成果可視化システム (Halo) の更なる活用の可能性を検討して実行に繋げる。
達成指標	引き続き全体の履修動向を確認するとともに、特に成績不振の学生や留学生の学習状況を注視し、必要に応じて改善策を講じる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関するここと】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム (Halo) の活用に努める。
年度目標	学部の出口保証のシステムについて、引き続きより適切な方を検討する。
達成指標	昨年度から開始した、ゼミごとの卒論発表会の学部内公開の効果を検証しつつ、必要に応じて改善を加える。また、卒論要旨集のあり方についても検討を続ける。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
年度目標	多様な入試形態による入学者について、学部における学習に支障なく取り組めているか検証し、必要に応じて対応を検討する。
達成指標	Halo 等を通じて学習成果を把握し、必要に応じて入試制度の改善を図る。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
年度目標	本年度入学者数が著しく増加したことにより、新入生及び在学生が学習上の不利益を被らないよう最大限配慮する。
達成指標	各々の授業について履修者の動向を確認し、必要に応じて臨時増コマ等の対応策を講じ

	る。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	3つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。
年度目標	教員採用人事においては学部の特性や専門領域を十分に考慮しつつ、学部内の合意形成を図りながら推し進める。
達成指標	採用人事に関わるプロセスを再検証し、透明性・持続性等を担保すべく必要に応じて内規の見直しを行う。
評価基準	学生支援
中期目標	入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。
年度目標	多様な入試経路による学生が十分な学習成果を上げることができるように、多角的に支援していく。
達成指標	キャリアアドバイザーや国際交流委員会による支援を一層充実させていくよう努める。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	教育・研究を通して積極的に社会貢献・社会連携を行い、そのプロセスや成果を広く発信していく。
年度目標	引き続き学部主催シンポジウムや体験型科目の成果報告等を広く公開していくとともに、ウェブサイトを通じた発信をより充実させていく。
達成指標	新カリキュラムの運用開始に向けて「キャリア・スタディーズ」をテーマとする書籍を刊行し、内外への周知を図る。
【重点目標】	
次年度からの新カリキュラムの運用開始に向けて、学則改正や時間割の決定等、整備面における対応を遺漏なく進めるとともに、旧カリキュラムの履修学生が不利益を被ることのないよう適切な配慮を講じる。	
【目標を達成するための施策等】	
カリキュラムの改定に必要な各種手続きを遅滞なく進めつつ、新カリキュラムへスムーズに移行することができるよう、教員の側の準備を進める一方で、現行カリキュラムの履修学生に対しても混乱が生じることのないようきめ細かなサポートを行う。	